



南部町立南部中学校 学校だより 第10号

チーム南部中

令和2年 8月25日(火)
校長 望月和彦

運動部3年生の集大成の場「中学校総合体育大会」

「様々なことが中止になって、目標や楽しみがなくなっている3年生のために何とか実施してやりたい」「中学校で3年間頑張ってきた部活動の締めくくりとして、可能な感染対策を行う中で実施してやりたい」など、教育関係者の強い思いと綿密な準備の中で、7月18・19・23日に峡南地区総合体育大会(総体)が開催され、7月25・26日、8月1・2・8・9・10日の7日間の日程で県総体が開催されました。県大会で野球以外は、感染症対策で保護者の参観も認められない異例の大会となりましたが、選手たちは試合ができることに喜びと感謝の気持ちを表しながら精一杯戦いました。部の顧問より、総体での生徒たちの様子をまとめてもらいましたので、以下に記載します。

男子バレーボール部	<p>県総体1日目、初戦は市川中。堅実なバレーを展開し、2-0で勝利。続いて、Best4をかけたパート決勝では下吉田中と対戦。1セット目は終盤までリードを許す展開となり、非常に厳しい戦いとなりましたが、持ち味のサーブが走り、粘り強くボールをつなぎ、逆転で勝利。2日目は高根中との準決勝。1セット目は会場の雰囲気にも飲まれ、負けてしまいましたが、2セット目は自分達のバレーを展開し、奪取。3セット目は終始接戦。しかし23-25の僅差で敗れ、結果は3位。コロナによって、非常に大変な大会となりましたが、バレーボールができる幸せや感謝、みんなと一緒に活動ができることの喜びなど、普段では味わうことのできない総体になりました。支えていただいた保護者の皆様ありがとうございました。</p>	
女子バレーボール部	<p>地区総体では、1日目は市川中、増穂中と対戦。2日目は三珠中と対戦し、2-0で勝利し、決勝へ。決勝は増穂中と対戦。1セット目は南部中の流れで試合を転換することが出来ましたが、2セット目は苦しい展開になりました。しかし、最後の1点まで強気で攻め続け、1-1で得失点差ではありましたが優勝。この1年間、選手が努力し続けたからこそ掴めた優勝だと思います。</p> <p>県総体では、1日目に泉中、六郷中に勝利し、2日目に進出。ベスト8をかけて、増穂中と対戦。選手は緊張の中、自分たちが持っている力を出し切ろうと奮闘しました。僅差での敗退に悔しい思いは残りますが、3セット目の最後まで全員でボールをつなぎ、声をかけ合い、あきらめずに相手に向かっていく姿勢は素晴らしかったです。3年生全員で総体に臨むことができ、心に残る2日間になりました。3年生の保護者の皆様、これまで女子バレーボール部の活動へのご理解とご協力、本当にありがとうございました。</p>	
男子バスケットボール部	<p>地区総体では、市川中と増穂中と対戦しました。地区優勝を目標に活動してきて、選手権大会が中止になったことで、この大会が最後のチャンスでした。負けてしまいましたが、仲間のミスにも励まし合うことができ、良い雰囲気の中で、持てる力を出すことができました。帰りのバスの中は、疲れてみんなぐっすりでした。</p> <p>県総体は、甲西中と対戦しました。オープン参加ではありましたが、初めての県大会で、試合前はいつも以上に気が引き締まっていました。試合になると伸び伸びしたプレーをして、敗れはしましたが良い試合でした。試合後のさわやかで清々しい表情が印象に残っています。</p>	
女子バスケットボール部	<p>地区総体では増穂中と市川中との試合となりました。1試合目の市川中との試合では久しぶりの試合と言うこともあり堅さが目立った試合となり苦しい場面の連続でしたが最後まであきらめず走り続けていた姿が印象的でした。2試合目の増穂中との試合では、1試合目とは違って変わり伸び伸びとしたプレーで最後まで気を抜けない好ゲームをすることができました。</p> <p>県大会は玉穂中学校との対戦しました。正直格上との試合でしたが地区総体の時よりも良い試合を行うことができました。得点だけ見れば3倍の差があったわけですが、それまで練習してきたオフェンスが上手く機能したり思い切ったプレーから得点を伸ばしたりすることができました。初めての県大会であり、最後の県大会となったこの試合で自分たちの力を出し切ったことが今後に繋がって欲しいと思います。</p>	

男子ソフトテニス部	<p>7月18日の地区大会個人戦が悪天候のため順延され、翌日は晴天の中、6ペア中5ペアが初戦に勝利することができました。特に、千月・五十嵐ペアが準々決勝で第2シードペアに肉薄するなど惜しいゲームもたくさんありました。23日の団体戦では、予選リーグで敗退しました。しかし、そのリーグの1位、2位が全体の優勝、準優勝という結果だったので、くじ運にも大きく左右されたようです。予選リーグ・決勝トーナメントを通して、優勝チームの増穂中に2-1だったのは、南部中だけだったことから、とても残念に思いました。</p> <p>県大会も、25日が8月9日に延期されました。当初、悪天候の場合は中止ということでしたが、何とか実施することができました。炎天下、猛暑の中、3年生のみ4ペアが、中学校での最後の試合に挑みました。どのペアも初戦で敗退してしまいましたが、こういう状況下で、3年生全員で共に試合ができたことが、大きな喜びであり、尊い思い出になったと思います。</p>	
女子ソフトテニス部	<p>地区総体・個人戦では、声を出し自分たちのペースで試合ができた仲亀歩華・田中希実ペア、校内戦1位の誇りを持ち出場した岡村咲祈・源由梨耶ペア、2人で1本を取りに行き粘る試合をした遠藤真歩・前田鈴音ペアを含め、出場した2年生も成果と課題が明確になりました。県大会では、後衛がコースを狙い、前衛が積極的にボレーに出る試合が展開できた仲亀・田中ペア、声を出し、自分たちの得意なプレーを発揮することができた遠藤・源ペア、粘って粘って前衛が決めに行く試合を展開することができた望月玲・四條瑞季ペア。心に残る一日となりました。支えていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。</p>	
野球部	<p>目的「野球部の活動を通し人として成長すること。」「地域・学校・家族・仲間と感動を共有すること。」最高の目標：全国大会出場。目的と目標のダブルゴールを。3年間、追及してきた信念です。本物の力をつけて挑む準備を整えた冬。選手権中止の春。そして、夏。多くの不安を超えて挑んだ総体。支部は、パート優勝。県大会、対八田・白根巨摩・押原の合同チーム。結果は、1-2の敗戦でした。泣き崩れ動けない選手の姿が頭から離れません。主体的な活動。一人一責任者。野球の本質。公式戦に近い練習。許すのも仲間だし、許さないのも仲間。文武連動。とても濃い過程でした。力をつけたことは間違いありません。中学野球に夢を抱いて頑張る生徒と、夢を見させてくれるチームでした。そして、子ども達を「こよなく愛する」保護者のみままに、選手も私達も本当に幸せに生かされた3年間でした。本当にありがとうございました。</p>	
陸上競技	<p>8月8日、9日に山梨中銀スタジアムを会場に県総体陸上競技の部が行われました。本校には常設の陸上部は無いわけですが3年生の希望者12人が各種目に参加しました。この日のために夏休みに入り1週間の練習を行い、午後には身延高校へ行っての練習も2回行いました。正直十分な練習とは行きませんでした。南部中学校代表として恥ずかしくない試合を行いました。</p> <p>陸上競技の対戦相手は「相手選手」ではなく、「自分自身」です。「前回の競技会の時の自分」「練習を始める前の自分」「昨日の自分」・・・いろいろな場面での「自分」との勝負です。この大会に参加した12人はそんな「自分」との勝負にしっかり勝ったのだと思います。</p>	

生徒数減少に伴う適正な部活動数について

本校の教育活動にとって部活動はなくてはならないものであり、生徒たちにとっても中学校生活の大切な楽しみや喜びになっています。また、達成感や感動を味わったり、授業では学べない様々な力や心を身につける場でもあります。しかしながら、本校は近年の生徒数の減少により、活動の継続に支障がでたり、試合に出場するための人数の確保に苦慮する状況が徐々に現れ、ここ数年は新入生の獲得競争のような状況が見られます。そこで、来年度に向けて部の数を削減するかどうかの検討を行うことになりました。その理由は以下の通りです。

- ① 睦合小、栄小、富沢小の6年生の児童数の合計は40人であり、全員が本校に入学したとしても法令上は中学入学時は1クラスになる。全校の生徒数は155人から135人になり20人減少する。その後も生徒数は130人台で推移し、増加する見込みはほぼない。
- ② クラス数が今年度は8クラス（通常学級6＋特別支援学級2）であるが、来年度は1減り7クラスになる見込みで、県費の教員数も2人減る見込みである。

※①②から、部として組織的に活動させたり大会に出場させたりすることが難しくなり、生徒を安全に効果的に指導する点においても、複数顧問が望ましい点においても、困難な状況が生まれる。

今後、様々な状況や条件を考え、生徒、保護者の皆様や関係者のご意見を聞かなかつて検討を進めていきたいと考えています。詳細については「学校だより」や文書にて知らせていきます。なお、削減することになった場合も、現在の1年生が卒業するまでは、現在の部は維持していく考えです。なお、生徒たちには、昨日の始業式の後、私からこのことについて伝えたところです。